

1. 科目名 (単位数)	病原微生物学 (2 単位)	3. 科目番号	EDHE2312
2. 授業担当教員	橋本 由利子		
4. 授業形態	講義、ワークシート提出、発表	5. 開講学期	秋期
6. 履修条件・他科目との関係			
7. 講義概要	<p>細菌やウイルスなどの微生物の中には、ヒトや動植物に病気を起こすものがある。病原微生物学はこれら病原性のある微生物を対象とする。人類はその歴史が始まって以来、数々の微生物感染症と闘ってきたが、自然科学の進歩とともに抗生物質やワクチンが開発され、公衆衛生や栄養状態の改善等とあいまって、先進諸国では感染症はほぼ制圧できたと思われた。しかし、近年の新興・再興感染症の広がりや薬剤耐性菌による院内感染、高齢者や免疫力の低下している人々の日和見感染など、病原微生物との戦いには終わりが無いことが明らかとなった。また、開発途上国の人々にとっては感染症は依然として脅威である。</p> <p>本科目ではこのような状況を踏まえたうえで、微生物とは何かという基礎から、ヒトにおける生体防御システム、感染症の予防対策まで幅広く理解する。</p>		
8. 学習目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1) 微生物感染症の歴史と現状について説明することができるようになる。</li> <li>2) 微生物の種類(細菌・ウイルス・真菌・原虫)とその基本構造について説明することができるようになる。</li> <li>3) 感染症の成立要因(①感染源、②感染経路、③宿主の感受性)について説明することができるようになる。</li> <li>4) 感染源・感染経路への対策について説明することができるようになる。</li> <li>5) 感受性対策について説明することができるようになる。</li> <li>6) 生体防御システムについてその概略を説明することができるようになる。</li> <li>7) 主な微生物感染症について説明することができるようになる。</li> </ol>		
9. アサイメント(宿題)及びレポート課題	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. その日に学習したことを整理するために、毎回ワークシートを提出する。</li> <li>2. 主な微生物感染症に関してテーマを決め、発表する。</li> <li>3. 常在微生物を用いた実習レポートを作成する(変更の可能性あり)。</li> </ol>		
10. 教科書・参考書・教材	<p>【教科書】 吉田真一、南嶋洋一著『系統看護学講座 専門基礎分野6 微生物学』医学書院。</p> <p>【参考書】 吉田真一、南嶋洋一著『系統看護学講座 専門基礎分野6 微生物学』医学書院。 吉川 昌之介著『細菌の逆襲』中公新書。 田爪正氣・築地真美著『ウイルスの手帳』研成社。 東京福祉大学編『教職科目要説(中等教育編)』ミネルヴァ書房。</p>		
11. 成績評価の規準と評定の方法	<p>○成績評価の規準</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 病原微生物の種類、感染症の成立要因、感染症対策などについて説明できるようになったか。</li> <li>2. 主な微生物感染症と生体防御についてその概略を説明することができるようになったか。</li> </ol> <p>○評定方法</p> <p>[日常の授業態度、提出物等を総合して評価する]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 日常の授業態度(参加、実践、発表、態度) 総合点の50%</li> <li>2. 課題レポート・期末試験など 総合点の50%</li> </ol>		
12. 受講生へのメッセージ	<p>人と病気の歴史は、人と微生物の闘いで始まり、現在も続いている。先人たちの病気との闘いの中で生まれた知恵をしっかり学び、これからの保健・医療・福祉の中で役立てよう。</p> <p>[受講生に期待される学習態度]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 授業は常に高い緊張感と集中力をもって受講すること。学生の積極的な態度が望まれる。</li> <li>2. 授業中、授業外に進んで教師に質問すること。理解できないことをそのまま放っておかないこと。</li> <li>3. レポートの提出期限は厳守すること。事情によって提出日に間に合わない場合は講師にそのことを文書で伝え許可をとるようにする。</li> <li>4. 授業中の私語、携帯電話の使用は絶対にしないこと。守れない場合は退室のこと。</li> </ol> <p>[講師は次のことを実行する]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 授業の目的、目標を明確にし、授業の進行はシラバスに沿って行う。</li> <li>2. 受講生全体に聞こえる大きさの声で話をするとともに専門用語はわかりやすく説明する。</li> </ol>		
13. オフィスアワー	授業開始時にお知らせします。質問はメールでも受け付けます。yuhashim@ed.tokyo-fukushi.ac.jp		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第1回	微生物の基礎知識(微生物の地球上における役割、病原微生物とは何か、新興感染症・再興感染症、薬剤耐性菌、院内感染、日和見感染症)	事前学習	シラバスを読んでくる
		事後学習	病原微生物とは何かを復習し、ワークシートを提出する
第2回	微生物の種類(細菌、真菌、原虫、ウイルス)とその基本的構造	事前学習	教科書の該当ページを読んでくる
		事後学習	微生物の基本構造についてまとめワークシートを提出する
第3回	細菌の性質(構造と特徴、細菌の培養と増殖、細菌の遺伝、細菌の分類、常在細菌と常在細菌叢)	事前学習	教科書の該当ページを読んでくる
		事後学習	細菌の性質についてまとめ、ワークシートを提出する

第4回	ウイルスの性質（構造と特徴、ウイルスの培養と増殖、ウイルスの分類）、真菌・原虫の特徴	事前学習	教科書の該当ページを読んでくる
		事後学習	ウイルスの基本構造についてまとめ、ワークシートを提出する
第5回	感染症の成立要因（病原体、感染経路、感受性者の存在が同時に存在すること） 感染症の予防対策 感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律（感染症法）	事前学習	教科書の該当ページを読んでくる
		事後学習	感染症の成立要因とその予防対策についてまとめワークシートを提出する
第6回	感染経路対策：滅菌と消毒（滅菌と消毒の違い、滅菌法、消毒法、消毒薬の種類と効果、標準予防策（スタンダードプリコーション）、手洗い方法）	事前学習	教科書の該当ページを読んでくる
		事後学習	滅菌と消毒についてまとめ、ワークシートを提出する
第7回	病原体対策：感染症の治療（化学療法剤の作用メカニズム、抗生物質、抗菌スペクトル、薬剤感受性試験、最小発育阻止濃度（MIC）、薬剤耐性）	事前学習	教科書の該当ページを読んでくる
		事後学習	感染症の治療についてまとめ、ワークシートを提出する
第8回	感受性者対策：免疫のしくみ（自然免疫と獲得免疫、免疫担当細胞、体液性免疫と細胞性免疫、抗原抗体反応）	事前学習	教科書の該当ページを読んでくる
		事後学習	免疫の仕組みについてまとめ、ワークシートを提出する
第9回	感受性者対策：予防接種（定期接種と任意接種、ワクチンの種類）	事前学習	教科書の該当ページを読んでくる
		事後学習	予防接種についてまとめ、ワークシートを提出する
第10回	主な微生物感染症①（学生発表） 感染症法で規定している感染症の中からテーマを選び、その原因病原体、症状、致死率、感染経路、治療法、予防法などをまとめ、わかりやすく発表する	事前学習	教科書の該当ページを読んでくる
		事後学習	感染症法1類感染症、2類感染症、3類感染症についてまとめ、ワークシートを提出する
第11回	主な微生物感染症②（学生発表） 感染症法で規定している感染症の中からテーマを選び、その原因病原体、症状、致死率、感染経路、治療法、予防法などをまとめ、わかりやすく発表する	事前学習	教科書の該当ページを読んでくる
		事後学習	感染症法4類感染症およびHIV感染症についてまとめ、ワークシートを提出する
第12回	主な微生物感染症③（学生発表） 感染症法で規定している感染症の中からテーマを選び、その原因病原体、症状、致死率、感染経路、治療法、予防法などをまとめ、わかりやすく発表する	事前学習	教科書の該当ページを読んでくる
		事後学習	性感染症、食中毒を起こす微生物についてまとめ、ワークシートを提出する
第13回	常在微生物を用いた実習（各種手洗い前後の手に存在する細菌を培養する）（変更の可能性あり）	事前学習	教科書の該当ページを読んでくる
		事後学習	手洗い方法と細菌実習の内容をまとめてくる
第14回	常在微生物を用いた実習（培養結果を観察し、手洗いの効果を考察する）（変更の可能性あり）	事前学習	細菌実習の結果を予想する
		事後学習	細菌実習の結果を観察して考察を加えレポートを提出する
第15回	まとめ	事前学習	病原微生物学で作成し返却されたワークシートを見直す
		事後学習	学習したことを振り返り、養護教諭や保健科教諭としての病原微生物に対する基本的考え方や感染制御方法をまとめる。

期末試験